

HPVワクチン

川口市立医療センター

産婦人科 たかしま **高島** えり **絵里**



子宮頸がんは国内で年間約1.1万人が罹患し、約2,900人が死亡しており、患者数・死亡者数とも近年漸増傾向にあります。子宮頸がんの90%以上は、HPV(ヒトパピローマウイルス)が原因であることが分かっています。HPVには200種類以上のタイプ(遺伝子型)があり、良性の疣いぼの原因になるタイプもあります。特に子宮頸がんの原因となりやすいタイプをハイリスクHPVと呼んでいます。HPVワクチンはハイリスクHPVのうち、特に子宮頸がんの原因として多い16型、18型に対して有効です。HPVは主に性交渉により感染が起こるので、初回性交の前にHPVワクチンを接種することで感染を予防することが期待できます。HPVワクチンは、接種後に多様な症状(頭痛、倦怠感、麻痺など)が報告されたことが報道などで取り上げられ、接種に不安を感じる人も多いと思います。しかし、これらの症状はHPVワクチン接種者特有のものではないことが調査で明らかとなり、2021年11月から厚生労働省はHPVワクチンの積極的勧奨を再開しました。日本産婦人科学会でもHPVワクチン接種を勧めています。すでにHPVワクチン接種が進んでいる欧米各国では、ワクチン未接種世代と比べて接種世代における子宮頸がん前がん病変の発生が有意に減少していると報告されています。一方、HPVが原因ではない子宮頸がんも、まれですがあります。ワクチン接種の有無に関わらず、子宮頸がん検診を受けることが早期発見のために重要です。